

モロッコ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在モロッコ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	2	2	140	8	23	387	10	25	527

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1982年モハメッド五世大学（ラバト）にJFから日本語教育専門家が派遣され、モロッコの公的機関における日本語教育が開始された。当初、人文学部の学生のみを対象とした選択必修外国語科目の一つとされていたが、その後公開講座へ移行したのを機に、他学部の学生や一般学習者を受け入れるようになった。モハメッド五世大学に加え、2002年に高等水産技術学院（アガディール、2005年に閉鎖）、2003年にハッサン二世モハメディア大学（モハメディア校）にJICAシニア海外ボランティアが派遣され、相次いで日本語講座が開講。さらに2005年秋からは、ハッサン二世モハメディア大学（カサブランカ・ベンムシック校）、2006年にはシディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学（フェズ）、2014年9月にはカディ・アイヤド大学（マラケシュ）、2017年にはムーレイ・イスマイル大学（メクネス）でも新規に日本語講座が開講される。このほかにアガディール、ラバト、フェズ、カサブランカの私立語学学校で日本語講座が開講されている。

また、JICA 海外協力隊員が、ミデルト青年の家で約 8 年間、青少年活動の一環として日本語を教えていたが、2009 年 1 月隊員派遣終了とともに同講座は終了した。他にも、2009 年 11 月から 2013 年 6 月までブッチャラミン青年の家（エルラシディア）で JICA 海外協力隊員による日本語講座が開講されていた。このほか、モハマメディア、タンジェ、メクネスのモロッコ人が運営する日本文化関連の非営利団体で日本語講座が開講されている。

2020 年、新型コロナウイルスの影響で多くの日本語講座が停止せざるを得なくなり、日本人教師（JICA 海外協力隊）の派遣も中止となった。2023 年以降、徐々に講座再開が始まり、現在は 300 名以上の日本語学習者及び 20 名近くのモロッコ人日本語教師がいる。さらに 2021 年に設立されたモロッコ日本語文化協会によるイベントを通じて、現地日本語教師及び学習者のネットワーキングが再活性化している。

背景

モロッコ国民は、総じて日本に対し「高度経済、高技術」、「勤勉な国民性」などの好印象をもっており、そこから日本語に関心を抱く者が多い。また、空手・柔道・合気道などの武道が盛んであることから、日本語学習に興味をもつ者も少なくない。さらに、日本のアニメやマンガ、ドラマ、ゲームといったポップカルチャーへの興味から日本語に関心を示す若年層が急増し、中にはインターネットの日本語入門サイトで学習を始めた者もいる。

特徴

モロッコでは、大学の公開講座の日本語教育が中心であり、実利的な目的よりは日本や日本文化に対する興味、知的好奇心から日本語学習を始める者が少なくない。学習者は、大学生が多数を占めるが、昼間の講座であるにもかかわらず、一般社会人の受講生も多い。土曜日に一般社会人を対象とした講座を設けている機関もある。日本語学習希望者は非常に多く、講座の説明会や登録日には、定員の何倍もの人が集まるが、教師不足により学習機会を十分に提供できない状況である。また大学以外でも都市部を中心に日本語学習希望者が多いが、担当教師不在のため、ニーズに対応できていない。今後の日本語教育の発展のためには、日本人教師の増員とモロッコ人日本語教師の養成が最大の課題である。さらにモロッコには 70 社の日系企業が進出しており、日本語を話せる人材のニーズがあることから、企業との協働を通じた日本語教育環境の向上及び、日本語学習者の受け皿の確保も必要である。

最新動向

2005 年 8 月に高等教育機関への JF からの派遣が終了し、それ以降は JICA 派遣の教師により講座運営がなされている。2020 年 2 月時点の JICA 海外協力隊は大学での日本語公開講座 3 名であったが、同年 3 月にはコロナ禍により全派遣隊員に帰国指示が出された。2026 年 1 月現在、JICA 海外協力隊は 4 名派遣されており（ラバト、マラケシュ、フェズ、メクネス）、モロッコ人日本語教師は約 20 名が活動している。

現時点での学習者数は、大学の日本語講座に約 200 名（ラバト、マラケシュ、フェズ、メクネス）であるが、公開講座の学習者数は変動が激しく、ラバトの場合は学期間の最終的な学習者数は 2 分の 1 から 3 分の 1 に減少する傾向が見られる。私立語学学校及び日本文化関連の非営利団体の活動の一環として実施されている講座での学習者数は約 100 名である。独学で学習している者の数も増加傾向であるが、正確な人数は把握できていない。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

マラケシュのフランス校 Victor Hugo 高等部が 2023 年まで実施してきたが、現在は教員がいないため中断を余儀なくされている。

複数段階

《大学での公開講座》

モハメッド五世大学では、一般人向け公開講座が開講されている。モハメッド五世大学での公開講座は、現在現地人臨時教員 2 名及び JICA 海外協力隊 1 名が日本語講座を運営している。

《モハメッド五世大学（ラバト）》

モロッコ人教師 2 名。学習者数は全コース合計 110 名。

学校教育以外

アガディール、ラバト、カサブランカ、フェズの私立語学学校で日本語教育が実施されている。対象は子どもから成人まで幅広く、日本語教育以外に日本文化紹介にも力を入れている。モハメディア、メクネスでは、モロッコ人が運営する日本文化関連の非営利団体の活動の一環として日本語講座が開講されている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-3 制。

小学校が 6 年間（6 歳～）、前期中等教育が 3 年間（12 歳～）、後期中等教育 3 年間（15 歳～）、高等教育機関は大学、高等専門学校など。他に各種職業訓練校がある。

教育行政

国民教育・職業訓練省が初等・中等教育を、高等教育・科学研究・幹部養成省が高等教育を管轄している。

言語事情

公用語はアラビア語とアマジク語（アマジク語は 2011 年 7 月の新憲法から公用語となった）。日常会話では主にアラビア語モロッコ方言、地方のアマジク人の間ではアマジク語が用いられる。また、フランス語も広範に使用されている。北部地域では、スペイン語を話す者も多い。

2003 年より、一部の公立小学校では 1 年生からアマジク語の学習が行われている。

外国語教育

公立校では、小学校2年生より、第一外国語としてフランス語を学習。第二外国語の学習は中学校3年生に始まり、英語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語から選択履修。私立校においては、大多数の学校にて、フランス語学習は併設の幼稚部年長クラスから始まり、小学部で各教科の学習がアラビア語に加えてフランス語でも実施されるほか、小学部低学年（1・2・3年）から英語の授業が設けられている。なお、公立校における外国語教育については段階的な改正が計画されており、2018年にはフランス語は小学校1年生から、第二外国語は英語を必須科目として中学校1年生から開始、2025年には英語の学習開始学年を小学校4年生に引き下げることが予定されている。スペイン語、ドイツ語、イタリア語については、第三外国語として高校1年生より選択履修の科目となる。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

複数段階

主に『みんなの日本語』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）シリーズ及び JF が提供するオンライン教材 MARUGOTO 及び IRODORI を使用。日本で市販されている各種教材や自主制作教材も適宜使用している。辞書、文法説明などは、フランス語版、英語版を用いている。

学校教育以外

『みんなの日本語』（前出）、フランス語版文法説明書及びオンライン日本語学習教材など。

IT・視聴覚機材

MARUGOTO、IRODORI

5. 教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語教育の実施は確認されていない（日本語教育が導入されるには博士号取得のモロッコ人の雇用が必要となり、早期の人材育成が望まれる）。

学校教育以外

学士号、日本語教育養成講座修了者、日本語能力試験合格者、日本語教育経験などがあると採用に有利になる。JF より日本語教育専門家が派遣された初期以降は JICA 海外協力隊の日本語教師に引き継がれている。JICA 海外協力隊日本語教師不在の際は日本語学習者のうち上級コース者が講座を開講している。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

全体で日本人教師の占める割合は3割以下である。コロナ禍に日本人教師が派遣されなくなった際にも、モロッコ人教師によるオンライン講座が実施され、現地教師育成が進み、増加傾向にある。

教師研修

2022年に、モロッコ日本語文化協会が JF カイロの日本語専門家の支援を受け、オンライン日本語学習教材 IRODORI を使った日本語指導に関する講演会を実施した。同協会は今後定期的な研修実施を計画している。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

「JICA モロッコ日本語教師会」（2006年1月発足）
 前身は「モロッコ日本語教師連絡会」（2003年～2006年1月）
 在モロッコ日本語教師間の相互交流、及びモロッコにおける日本語教育環境向上のための情報交換を目的とし

て設立。日本語弁論大会の企画・運営等の催事開催のほか、コース運営や教材等の情報交換を行っている。2010年より、日本語能力試験（JLPT）の運営補助を実施していた。

2020年の新型コロナウイルス流行により、JICA 海外協力隊が帰国を余儀なくされた後、同会は活動を終了した。その後 2021年に現地日本語教師によって設立された NPO 法人モロッコ日本語文化協会によって活動が引き継がれている。

「NPO 法人モロッコ日本語文化協会」（2021年12月発足）

前身は「日本文化モロッコ協会」（Moroccan Association for Japanese Culture）（2018年～2020年）

在モロッコ日本語教師及び日本語学習者間の相互交流及び、モロッコにおける日本語教育環境向上のための情報交換・日本文化啓発を目的として設立。日本語弁論大会の企画・運営等の催事開催、日本語能力試験（JLPT）の運営補助、2022年からは実施機関としての運営を行っている。

またそのほかに、中東諸国（エジプト、アラブ首長国連邦、イエメン、イラン、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、バーレーン、モロッコ、ヨルダン、レバノンほか）の日本語教師のネットワークがある（JF カイロ日本文化センターが主催）。

最新情報

2018年5月に第19回モロッコ日本語スピーチコンテストを実施した。

2019年3月に第20回モロッコ日本語スピーチコンテストを実施した。

2020年3月に JICA ボランティアに帰国指示。同年の日本語能力試験（JLPT）の中止が決定した。

2021年、新型コロナウイルスの流行を受けて中断していた JLPT やスピーチコンテストの再開を目的として、モロッコ人教師を中心に「モロッコ日本語文化協会」が設立され、2022年12月には JLPT が2年ぶりに実施された。

2023年12月に初めてオンライン申し込み方式で JLPT が実施された。

2023年3月に第21回モロッコ日本語スピーチコンテストを3年ぶりに実施した。

2024年3月に第22回モロッコ日本語スピーチコンテストを実施した。

2025年4月に第23回モロッコ日本語スピーチコンテストを実施した。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

なし

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

カディ・アヤド大学 1名
 モハメッド五世大学 1名
 ムーレイ・イスマイル大学 1名
 ハッサン2世大学モハメディア校 1名
 シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学 1名

その他からの派遣

(情報なし)

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

2010年12月以来毎年1回12月にラバトで日本語能力試験（JLPT）が実施されている。

10.日本語教育略史

1982年	モハメッド五世大学（ラバト）で日本語教育（選択必修外国語科目）開始。その後段階的に公開講座に移行
2002年	高等水産技術学院（アガディール）で日本語講座開講 （2023年現在、講座実施は確認されていない。閉講年不明。）
2003年	ハッサン二世モハメディア大学（モハメディア校）で日本語講座開講 ミデルト青年の家で日本講座開講
2005年	ハッサン二世モハメディア大学（カサブランカ・ベンムシック校）で日本語講座開講
2006年	シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学（フェズ）で日本語講座開講
2009年1月	ミデルト青年の家の日本語講座終了（JICA 海外協力隊員の派遣終了のため）
2009年11月	ブッチャラミン青年の家で JICA 海外協力隊員によって日本語講座開講

2013年6月	ブッチャラミン青年の家の日本語講座修了（JICA 海外協力隊の派遣終了のため）
2014年	カディ・アイヤド大学（マラケシュ）で日本語講座開講
2017年	ムーレイ・イスマイル大学（メクネス）で日本語講座開講
2020年	新型コロナウイルス流行により、以下の大学において日本語講座が停止 <ul style="list-style-type: none"> ● ハッサン二世モハメディア大学（モハメディア校） ● シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学（フェズ） ● カディ・アイヤド大学（マラケシュ） ● ムーレイ・イスマイル大学（メクネス）
2023年	以下の大学において日本語講座が再開 <ul style="list-style-type: none"> ● ハッサン二世モハメディア大学（モハメディア校） ● シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学（フェズ）（3ヶ月の再開後再び停止） ● カディ・アイヤド大学（マラケシュ）
2024年	ムーレイ・イスマイル大学（メクネス）で日本語講座が再開 シディ・モハメッド・ベン・アブドゥラ大学（フェズ）で日本語講座が再開

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）